

No.307

2026年
4月号

さくら

図書館だより

(編集・発行)

宿毛市立坂本図書館

〒788-0001

宿毛市中央二丁目7番14号

☎ 0880-63-2654

FAX 0880-63-0155

《 展示のご案内 》

展示期間 4月23日(木)まで

★メイン展示

『整える。』

今回の展示は、

- ・心を整える
- ・体を整える
- ・お部屋を整える

という3つのコーナーを設けました。



●メイン展示図書(抜粋)

- 「仕事も対人関係も落ち着けば、うまいく」
- 「不機嫌を飼いならそう」「心と体が整うひとり菜膳せいろ」「リセット上手な私になる」「部屋は変わる」「お悩み相談そんなこともアラーナ」
- 「ネコさんが教える疲れリセット教室」
- 「片づけをプロジェクト管理してみたら」
- 「科学的に証明されたすごい習慣大百科」

★サブ展示

『春を楽しむ』



ワラビやゼンマイ、タケノコなどの山菜が美味しい季節になりました。

野草や春野菜料理の本、春の絵本などを展示しています。ぜひごらんください。

●サブ展示図書(抜粋)

「和」の行事えほん1」

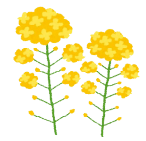
「タンポポのたんけん」

「散歩で見つける薬草図鑑」「子どもと楽しむ雑草ブーケ&室内飾り」「和ハーブのある暮らし」

「農家直伝たくさんとれた野菜の保存と料理」

「野菜たっぷり大量消費レシピ304」

「きょうはおうちでいちごがり」「おはなみ」



読書ボランティア 『きてきて、きいて』紹介

読書ボランティア団体「きてきて、きいて」では子どもたちの健やかな成長を願って読書の大切さや楽しさを伝えるために、宿毛市内の小・中学校に訪問して絵本の読み聞かせなどの活動を行うほか、月末の金曜日に活動についての研修・反省会を行っています。

興味のある方は、お気軽に図書館までお問い合わせください。

問い合わせ先
宿毛市立坂本図書館

☎ 0880-63-2654



読んでみませんか？

-新着図書のご案内-

(一般)

鳥たちの素敵な名前のお話

大橋 弘一 著
文一総合出版

なぜその鳥はその名で呼ばれるようになったのか。その答えは、時を超えて語り継がれる言葉のルーツの中に隠されています。本書は歴史を遡り古典文学を紐解きながら、現代に生きる鳥たちの名前の由来を美しい写真とともに優しく解き明かしていきます。

その名に刻まれた、知られざる物語。鳥の名前の由来を知ることで、身近な自然との距離を少しだけ縮めてみませんか？

(児童)

世界のまいにちごはんいただきます！

阪口 克文 写真
さ・え・ら書房

韓国のチーズタッカルビや、ウズベキスタンの伝統的な炊き込みご飯。世界の台所を訪ね歩いた著者が、各国で出会った「まいにちごはん」を届けてくれる一冊。驚きの習慣や感動体験とともに、日本の食材で簡単に作れる再現レシピも紹介されています。

異国の文化とおいしい香りを感じてみませんか？

(一般)

14歳、字を書けない私が「書く」喜びを手にするまで

朝野 幸一 著
新潮社

読むのは得意、しかし文字を手書きするのは苦手。周囲に気づかれにくい「書き障害」の葛藤を抱えてきた14歳の著者が、自らを「取材」した自伝的エッセイ。

小学5年生で「書く」喜びを知り、前を向き始めた著者の軌跡が描かれています。同じ悩みを持つ方、そしてその周囲にいる全ての方に読んで欲しい一冊です。

(児童)

ほんとうのよるをさがして

マーシャ ダイア アーノルド ぶん
スーザン レーガン え
評論社

ある夜、明るくて眠れないキツネはムシと一緒に「くらやみ」を探しに行くことに。でも家や車の光、街の街灯…。どこもかしこも光だらけ！「ほんとうのよる」を見つけることは出来るのでしょうか？

今はまだあまり知られていない光の害「光害」を知る絵本。私たちの生活に欠かせない光が、自然や動物たちにどんな影響を与えているのかを考えるきっかけになります。

※本の紹介文は、スタッフが作成しています。

灯台

松澤まり子

風工房さんというニットデザイナーが好きでガンジーセーターのパターン本を出されているので買おうかなあと考えていたら、自分の本棚にあった。あら、しっかり持ってたやんか、と一人笑った。他のニット本を探している最中だった。自分でウケる。

なぜかこういうことはよくあることで、同じ作家さんの本を2冊持っていたりする。「あしながおじさん」は出版社が違うものを3回くらい買ったこともある。「長いお別れ」は昔好きで何度か読んだが、村上春樹訳も読んでみたくて2冊ある。翻訳者が違うと読んでみたくなるのだ。そういえば洋書も持っている。「硝子戸の中」はすごく古いものも持っていたり漱石全集の、この随筆のある巻は持っている。「ジェーン・エア」も子供の頃読んだ新潮文庫とブロンテ姉妹全集のものもある。お菓子作りの本でなぜか同じものが2冊あるのは、勘違いして買ったものだ。……書いていて恥ずかしくなった。おっちょこちょいなのだ。

SNSは困ったものだ。インスタグラムなどで人様が読んでいる本などを挙げていたら読んでみたくなって買ってしまうこともある。海外の方をフォローしていることが多いので洋書などもある。読むかという、そうでもなく、「いつか読む絶対読む」の積ん読で、ベッドサイドテーブルに積んである。読まれるのを待っている本たちはわたしの寝静まった後、まったく困ったものね、いつになったらページを開いてくれるのかしらね。わたしが一番かしら。あら、わたしよ、何年も前からいるんだから。いや、ぼくだよ、はるばるイギリスから来たんだから。なにそれ、関係ないわよ、ふん。とかワイワイ騒いでいるかもしれない。そんなわけでたまに本たちはテーブルから床にこぼれ落ちている。

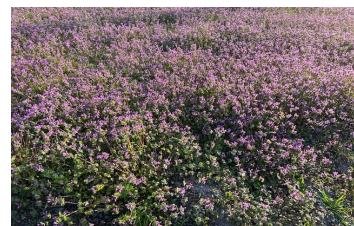
春になると絶対読みたくなるTSエリオットの詩集はもう年中無休でテレビ台の上にあったり今は机の上でん、と陣取っている。薄い本だが、これはイギリスに留学している時に地元の小さな本屋さんで買ったものだから相当古い気がする。ページも茶色になっている。面白いもので、買った日の本屋さんの棚から本を引っぱり出した時など妙に覚えている。当時はその詩人をあまり知らずただ読んでみようかな、という気持ちで買ったのだ。後日、とても有名な詩人だと知った。それが冷蔵庫にコピーをマグネットで貼ったりして読むようになるとは。人生って面白いですね。

ところで今年の初めころから妙に明治の頃から日本に来て技術を教えたという外国人に興味がつつと湧いてきて、そんな本たちをぼつりぼつりと読んでいる。講談社学術文庫など超久しぶりに手にとったはいいものの、小難しくて時間がかかる。図書館にも文献がないだろうかと検索サイトで探してみたら数冊見つけたので4月号は図書館で本を借りて彼ら、お雇い外国人といわれた人たちのことを本を参考にして書こうと考えていた……のは1月から2月のことだ。思うばかりで買った本も読まないうちに3月になってしまった。

なぜ興味を持ったのか、うちの家の裏にある松田川の橋の工事をしているからか？橋が老朽化してあちこち橋の工事をしている。まあだからと言って興味がわいたわけでもないが、以前会ったノルウェー人の風力発電の技師さんの影響もあるかもしれない。橋の技術、鉄道、灯台、道路、建築、法律、学術……ありとあらゆるものが近代化された明治時代は「お雇い外国人」の力があってのことだと今更ながらに知った。彼らについてきた使用人たち、料理人やその他もろもろの人たちも今の日本文化に貢献しているのかもしれない。居留地のあった神戸などのお菓子は有名ですね。勿論、日本人も外国に行き技術を学んだのは知られるところだ。

中でもわたしの興味をひくのは灯台だ。灯台が明治から初めて外国人技師の手で作られたということ。スコットランド出身のブラントンという方の功績が調べるとよく出てくるのだが彼についてきた名も残っていない人たちがいて、それは他の業種の技師や功績を残した外国人も同様で日本に骨をうずめた人たちもいるという。まだまだ知りたい。

そこで今、明治って何年前になるかなと思って計算してみたら158年だった。わずかに158年で「今」に。思えばものすごい発展ぶりではないだろうか、と啞然としている春の夜は静かで、ここ数日仕事柄、混沌としていた気持ちがちょっとほどけて、青い海を見下ろす崖の上の白い灯台を思い起こすと、こころが穏やかになっていく。暗闇の海の上に一筋の灯台の光が明るく照らすように行く道にも光が灯るようと思わずにいられない。



春近所で満開のははこぐさ

～新着図書のご紹介～

一般図書



- 0 「超入門 無料で使えるデザインツール Canva」 山本 和泉
- 1 「スルッと開運! 最強参拝13のコツ」 藤井 博康
- 2 「人物でたどる日本の歴史」 五味 文彦
- 3 「子どもの消えゆく国で」 前田 正子
- 3 「働く親のためのサバイバルガイド」 岸畑 聖月
- 3 「地面師vs. 地面師」 森 功
- 4 「100歳アイ」 伊勢屋 貴史
- 4 「乳がん女性のエスノグラフィー」 菅森 朝子
- 5 「痩せ方の学校」 鈴木 達也
- 5 「パイシートすごっ!」 深沢 あや
- 6 「シン・オーガニックビレッジ宣言のすすめ」 勝又 英博
- 7 「運動の科学」上・下 ダニエル・E・リーバーマン
- 9 「ノーウェア・ボーイズ」 井上 先斗
- 9 「カフェの帰り道」 嶋津 輝
- 9 「外の世界の話を聞かせて」 江國 香織
- 9 「DANGER」 村山 由佳
- 9 「微笑み迷子」 新堂 冬樹
- 9 「涯しない影に」 赤川 次郎
- 9 「ゴルフ人生、泣いて、笑って」 江上 剛
- 9 「言問ラブソディ」 小野寺 史宜
- 9 「天までのぼれ」 中脇 初枝

※左側の数字は図書の分類を表しています。
0...総記、1...哲学、2...歴史、3...社会科学、4...自然科学
5...技術、6...産業、7...芸術、8...言語、9...文学

児童図書



- 「モンスター・ホテルでリサイクル」 柏葉 幸子
- 「日本史スゴイきょうだい!」 楠木 誠一郎
- 「十年屋」9 廣嶋 玲子
- 「こども新聞記者入門」 朝日小学生新聞 監修
- 「世界のまいにちごはんいただきます!アジア編」 阪口 克
- 「ウレタンのひみつ」 海野 そら太
- 「イメージセンサーのひみつ」 藤 みき生
- 「橋のひみつ」 マリサ
- 「隠れ最強動物図鑑」 今泉 忠明

絵本



- 「はてなさん」 吉岡 さやか
- 「ジッタとゼンスケ はなみにいく」 くら ささら
- 「くろくんたちのすてきなおえかき」 なかや みわ
- 「なにが はいっているのかな?」 山本 久美子
- 「ワンピースちゃん」 うえの よう
- 「ノラネコぐんだん こんにちは」 工藤 ノリコ
- 「やきゅうのずかん」 牛窪 良太
- 「デコピンのとくべつないちにち」 大谷 翔平
- 「せかいはすきであふれてる」 大森 裕子



★このほかにもたくさんの図書が入っております。
図書館ホームページでは、新着図書一覧が検索
できますので、そちらもぜひご覧ください。

【新着図書一覧検索】

4月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

5月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

開館日時 火～金 10:00～18:30 土・日・祝 10:00～18:00

ホームページ <https://www.city.sukumo.kochi.jp/docs-25/p010805.html>

メールアドレス tosyo@city.sukumo.lg.jp

※4月29日(水・祝日)・5月3日(日・祝日)・
4日(月・祝日)・5日(火・祝日)・6日(水・祝日)は、
BGMデーです。



【図書館HP】

